

長崎とフォークダンス教育

野 田 章 子

“Learning Folk Dance in Nagasaki”

Fumiko NODA

長崎女子短期大学紀要 第51号 令和7年度 別刷

Reprinted form

Nagasaki Women's Junior College Annual Report of Studies, 51 : 50 – 56

2026

研究ノート

長崎とフォークダンス教育

野 田 章 子

“Learning Folk Dance in Nagasaki”

Fumiko NODA

はじめに

本研究の目的は、戦後の長崎でおこなわれていたフォークダンス教育について明らかにすることである。そして、そのようなフォークダンス教育にどのような意味があったのか、またフォークダンス教育が長崎の教育にどのような影響を及ぼしたのかを検討する。このような研究は、長崎の舞踊教育の変遷を明らかにする重要な手がかりになるといえよう。

1. フォークダンス教育のはじまり

戦前まで学校教育でおこなわれていた舞踊学習は「遊戯」の概念のなかで発展しており、戦後の教育改革に伴いダンスやフォークダンスが内容に取り入れられ、名称も「ダンス」が使われるようになった(矢島 1996)。

特に学校教育における外国のフォークダンスの普及には、連合国最高司令官総司令部(GHQ)の民間情報教育官となったウインフィールド・ニブロ Winfield P. Niblo¹の影響が大きい。ニブロは、1946年7月から1948年11月まで長崎に駐在した長崎軍政教育官で、男女共学化を強く推進した教育改革指導者であった。また、その功績から「日本のフォークダンスの父」とも呼ばれている。ニブロは日本におけるフォークダンスの始まりは、彼が長崎県庁の健康教育課の課長が開いた夕食会に招かれ、体育教師が披露した日本舞踊や「おてもやん²」の余興に感動し、お礼に「バージニア・リール³」を教えたことだと述べる。ニブロはこ

れを「1946年のある秋の夕べ、小さいながらもあ
る歴史が長崎で生まれていた」(アーンズ 2002 :
240)と記している。同年12月にはニブロが教える
日本初のフォークダンス教室が長崎で始まり、
教師を中心に百人前後が受講していた。その後ニ
ブロからフォークダンスを習った教師が、それぞ
れの学校でフォークダンスを教え、その結果
フォークダンスが長崎全域に広まっていったので
ある。さらにこの長崎でのフォークダンスの普及
に旧文部省が注目し、1947年には旧文部省が
フォークダンス視察団を長崎に派遣している。そ
の結果旧文部省が、長崎県の教育課に日本中で使
用できるフォークダンスの教科書を作成するよう
に要請し、ニブロが教科書作成に協力していたこ
とが明らかになっている。以上のことから、長崎
はフォークダンス教育の普及や確立と大きく関
わっていたといえるだろう。

2. ニブロと長崎におけるフォークダンス教育

ニブロの長崎におけるフォークダンス教育は、
前述のように、1946年秋に県庁の健康教育課の課
長であった金子喜三市が自宅で開いた夕食会で
「バージニア・リール」を体育教師らに教えたこ
とが始まりである(アーンズ 2002)。その後ニ
ブロが開いた日本初のフォークダンス教室は、
1946年12月に始まり、長崎軍政府⁴ビル(戦前の
長崎教育会館)の3階ホールで開催されていた。
このフォークダンス教室は毎週土曜日の夜に開か
れ、教師、警察官、鉄道職員など50~120人が参

加していたことが分かっている（写真1）。

大正2年の長崎市桜馬場町の誕生当時の復元地図（写真2）から、長崎の軍政府ビルに使われていた戦前の長崎教育会館は、新大工町の中島川沿いにある杉山橋付近に位置していたと読み取れる。この戦前の長崎教育会館は、戦後すぐに長崎軍政府ビルとなりGHQの長崎支部的な役割を果たし、



写真1. 長崎軍政府ビル3階ホールでのニプロのダンス教室（朝日新聞2012年4月5日朝刊31面）

1949年11月から原爆傷害調査委員会/ABCC（Atomic Bomb Casualty Commission）（以下ABCCと略す）の建物（写真3）となっている。1970年の新大工町の写真（写真4）を見ると、ABCCの建物の特徴である旗竿を左手奥に、旗竿と道路を挟んで反対側にはデパートの屋上サインを確認することができる。デパートの屋上サインは現在（写真5）でも確認できるため、ニプロがフォークダンスを開いていた場所をおおよそ正確に把握することができる。

ニプロのフォークダンス教室の参加者の感想は、以下のようなものが残っている。その内容を抜粋



写真3. ABCC（戦前の長崎教育会館）（『ABCC—放影研の歴史』）

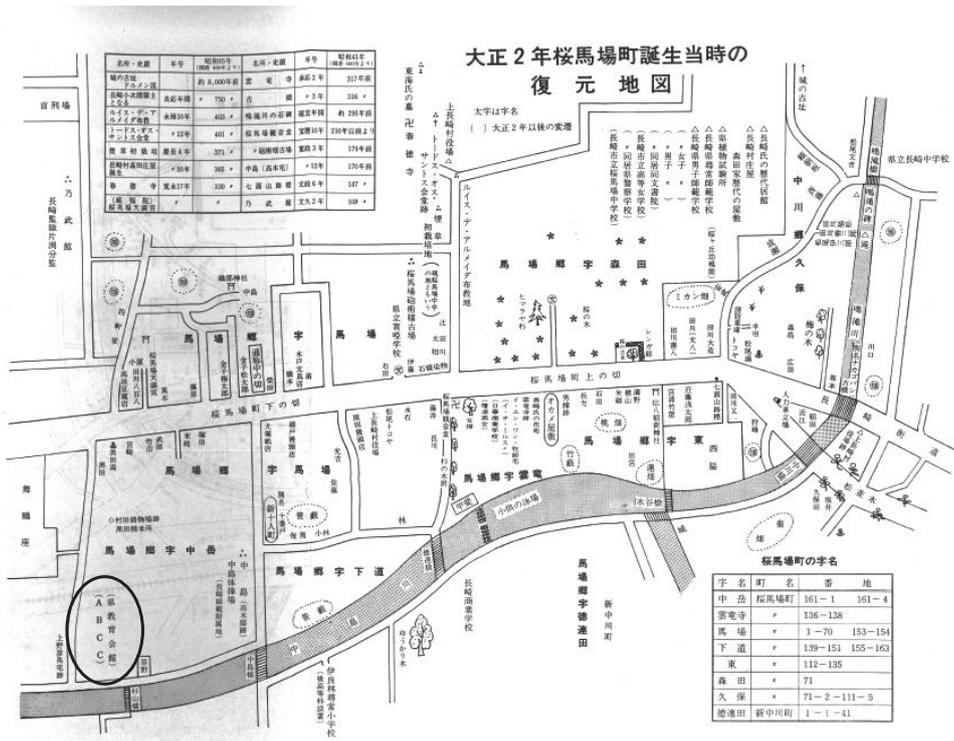


写真2. 長崎教育会館の場所（左下）囲み梓筆者加筆（『桜馬場町今昔詩～長崎は桜馬場～』から）



写真4. 新大工町 (1970)
 (『桜馬場町今昔詩～長崎は桜馬場から～』)

すると、「日本人の男女と一緒にダンスすることに慣れていないから少々の戸惑いがありました。でも、一度か二度講習を受けるとたちまちフォークダンスの強烈なファンになったんです。音楽は刺激的だったし、ダンスはとっても楽しいし（当時ニプロ秘書 大石淑子）」（アーンズ 2020：241）、「自由に見えた。きゅーっと8回まわるんですよ。もう面白くて、面白くて。夕方、学校が終わるとすぐに行きたかった。（略）アメリカが日本を丸め込むためにやっているのかな、と思うこともなかったわけではない。でも、楽しかった（当時小学校教師 白木千代子）」（朝日新聞 2012b：33）、「娯楽がない時代でしたからね。男女一緒に踊って、子供に戻った気分でしたよ（当時高等女学校体育教師 町田豊子）」（西日本新聞 2005c：12）などと書かれている。

このようにしてニプロが長崎市で教えたフォークダンスは、長崎県および九州各県に広まっていったのである。このようなフォークダンスの急速な拡大を受け、1946年のアメリカ占領軍の報告書には「ダンスを楽しみ、感謝する長崎人の様子からして、安くて健康的なこの種のコミュニティー・レクリエーション⁵にいかにも彼等が飢えていたかが伺える」（アーンズ 2002：243）と記載されている。一方で、民主主義と男女共学の精神をアメリカのダンスで浸透させるというニプロの考え方を、日本人が強要されていたという意見もある。当時佐世保の中学5年生であった歴史学者の瀬野は、「長崎のように乱暴な男女共学が強行された『ニプロ方式』は全国的にも、最もラディ



写真5. 新大工町 (2015年)
 2015年11月筆者撮影

カルな学制改革方式であり、占領軍の絶大な権力を背景にして初めて行えた改革であった」（瀬野 2008：162）と述べている。実際に「長崎様式」は「ニプロ方式」と呼ばれ、軍政府の兵士やニプロが不意に学校を訪れて軍国主義的、超国家主義的なものが教育界から追放されているかどうかを厳重に点検し、それが施行されていない学校の校長や責任者がいれば、ただちに日本の行政機関に命じ、処分をおこなったという。例えば男女共学に関しては、教室内の男女の机の配置などまで限なく視察したという（佐世保市教育委員会 1973：15）。「視察のためとはいえ、銃を片手に土足のまま校長室にはいつてきた米兵たちに、教育現場はさすがにどぎもを抜かれ、薄気味わるいものであった」（毎日新聞西部本社 1994：81）と語られている。ただ、ニプロは親しく児童に接し、教師と語り、PTA または一般市民との話し合いの場も設けて、膝を抱えて懇談しながら、民主教育と民主主義について熱心に指導したため、人格者で誰からも慕われていた人物であったと評されている（長崎県教育委員会 1978：159）。また、ニプロは婦人や青年の成人教育⁶を推進し、長崎県の社会教育を芽生えさせた功績も残している。ニプロの成人教育の中にはディスカッションと共に、新しい活動としてレクリエーションが必ずあり、歌ったり、踊ったり、軽体操したりする活動と共に、ニプロの指導するスクエアダンス⁷がはめ込

まれていたという（前掲：149）。このような長崎に対するニプロの貢献から、「戦勝国も敗戦国もない、人種を超えた彼の深い人類愛の精神は、長崎の人々に温かい灯をともした」（塚野 1999：207）と記されている。

3. ニプロのフォークダンス教室の実際

戦後の長崎市で開かれていたニプロのフォークダンス教室の実際を明らかにするために、2015年12月2日長崎文化歴史研究所にて、長崎文化歴史協会理事長、長崎純心大学名誉教授（当時）の越中哲也⁸に聞き取り調査をおこなった。越中がニプロのフォークダンス教室を手伝うことになった理由は、英語が話せたこと、そして伊良林にある光源寺の長男であったことだという。光源寺は長崎軍政府ビルから近いだけでなく、明治期から子どもを対象とした日曜学校を開いていたため、寺の息子である越中は社会的な教育に適している人材とみなされたそうである。以下は、越中の聞き取り調査の内容の抜粋である。

ニプロさんは真面目だったよ。タバコも吸わないしね。いつも仕事の話をしてたよ。背が高く、身なりもきちっとしていた。誰にでもすぐ握手をする。日本人は手を引っ込めていたけど。

ニプロさんにスクエアダンスをするから人を集めろと言われたけど「スクエア体操」というて集めたよ。ダンスはまずいでしょ。良家のお嬢さんは来ないね。「男女7歳にして席を同じゅうせず」の時代だからね。でも強制的ではなかった。

まあ、どこかに出かければ、何かをもらえる時代だから。食べ物が欲しいから、人は来るよ。最初はやっぱりチョコレートとかやったね。みんないやしかったからね。

着るものもない時代だからみんな軍服かブラウスにズボンだったよ。軍政府の仕事をしてた人達にはネクタイや服が支給されていたね。

最初は男女が離れていたけど、徐々にみんなそれにも慣れていった。でも、ただそれだけの

ことだよ。ソーシャル・エデュケーションっていう言葉の意味さえ分からなかったんだからねえ。

越中の聞き取り調査から、ニプロが実際に新大工町の軍政府ビルの3階ホールで定期的にスクエアダンス教室を開いていたことが明らかになった。そして、「強制的ではなかった」という越中の言葉から、ニプロの温厚な人格が伺われた。また、当時の日本人が握手さえもできず、男女で一緒に踊るなどは以っての外だと考えていたことも分かった。そのため日本人にとっては、ダンスは無作法な品のないものであった。しかし、食べ物欲しさにダンス教室に集まる日本人がいたことも事実である。作法や品よりも、食べ物という時代であったからこそ、日本人がダンスを受け入れたのだといえるだろう。このような背景を考えると、ニプロのフォークダンス教室の実際は、ニプロがアメリカのダンスが日本人に幸せをもたらすと考えて始めたのとは別の理由や目的で、人々に浸透し、広まっていったのだと結論づけられるだろう。

4. 長崎とフォークダンスのその後

ニプロは1948年12月末に、長崎軍政府から北海道軍政府の教育官として移動し、1950年8月に離任している。その間に北海道でもスクエアダンスとレクリエーションの発展に多大な功績を残した（小玉 2011）。ニプロが長崎にいた1947年頃には、3万から5万のフォークダンス愛好者が県内にいたと推定されており（アーンズ 2002：244）、ニプロが長崎を去った後は、1956年に発足した日本フォークダンス連盟長崎県支部などがその普及を牽引してきた。その中でも注目すべきものが、2005年（第1回）から2014年（第10回）まで開催された「ウインフィールド・P・ニプロ記念ハウステンボスフォークダンスフェスティバル」（西日本新聞社などが主催）（写真6）である。フェスティバルには、たくさんのフォークダンス愛好者が全国からハウステンボスに集まり、フォークダンス発祥の地としての長崎を大いに盛り上げた。各年の新聞記事から参加者は、2006年約1,500人、2007年約1,300人、2008年約1,800人、2009年約1,900



写真6. ハウステンボスフォークダンスフェスティバル
(西日本新聞2007年5月22日朝刊4面)

人、2010年約1,200人、2011年約1,000人、2012年約1200人と多数であったことが分かる。また2007年には米海軍佐世保基地の米兵15人がフェスティバルに参加、2009年のフェスティバルではニブロの功績をたたえる記念碑をハウステンボスのアレキサンダー広場に建立するなど、長崎らしいフォークダンスフェスティバルを開催して、その普及に貢献していたといえよう。しかし2013年約470人（前夜祭）、2014年約400人（前夜祭）を最後にフェスティバルは中止になった。その理由を主催に関わっていた西日本新聞社に問い合わせたところ、ハウステンボスの経営方針が変わり踊る広場がなくなったこと、運営資金の問題、参加者の減少などの返答があった。

5. まとめ

戦後フォークダンスが長崎で普及した当初は、人々はフォークダンスの魅力や楽しさではなく、貧しい生活の中で食べもの欲しさにつられてフォークダンスに近づいたといえよう。しかし実際にフォークダンスに触れた人々は、娯楽として

フォークダンスを見るようになり、楽しい、面白いといった気持ちを感じるようになった。それはフォークダンスが、元来人々の生活に幸せを与えるために存在しているものであることに他ならない。たとえフォークダンスが男女共学や民主主義という目的を果たすために踊られたとしても、そこにある楽しさは古来より人々が生活のなかで営んできたものであり、人間のもつ欲求に基づいているものである。だからこそ、アメリカのフォークダンスであってもその楽しさを日本人が理解できたのではないだろうか。ニブロは、踊ることを強制しなかった。「フォークダンスを紹介したのは、常日ごろ『人と一緒に楽しいことをしたい』とニブロさんが思っていたからだよ」(西日本新聞 2005c) とニブロの通訳をしていた竹内敏郎が述べている。夕食会の余興から始まったフォークダンスだったからこそ、ニブロは楽しい時間を人と共有するためのものとして教えたかったのではないだろうか。また、そうであったからこそ、「ウインフィールド・P・ニブロ記念ハウステンボスフォークダンスフェスティバル」に象徴されるよ

うな、長崎の人々に愛されるフォークダンス文化として発展することができたといえるだろう。

¹ ウインフィールド・ニプロ Winfield P. Niblo について



写真7. 西日本新聞2009年4月16日朝刊23面

1912年8月5日テキサス (Texas) のリヴィエラ (Rivera) で生まれる

幼少期にデンバー (Denver) に家族と転居

(主な学歴)

デンバーの西高等学校を卒業

デンバー大学の経済学部を卒業

同大学にて教育経営学の修士号を取得

コロンビア (Columbia) 大学で教育経営学の博士号取得

(主な職歴)

デンバー東高等学校で社会と体育を教える

1942年陸軍に入隊

1945年12月横浜到着。CIC (防諜部隊) の仕事をして
いたが退役し、連合国最高司令官総司令部 (GHQ)
の民間情報教育局 (CIE) 教育官として軍に所属

1946年7月～1948年11月まで長崎軍政府教育官として
長崎に赴任

1948年12月～1950年8月まで北海道軍政府教育官とし
て北海道に赴任

1951年婦米し外務省に入り外交官として25年勤務

1976年に退職

1981年日本全国フォークダンス連盟創立25周年記念行
事参加のため再来日

1982年4月「勲三等」賜り、「フォークダンスの父」
と呼ばれる

1985年まで地域の子ども支援センターで体操を教える
2007年3月8日 デンバー自宅にて死去 (享年94歳)

² おてもやんは、日本の熊本のフォークダンスの名称で
中学校のフォークダンス授業に適しているとされる
(写真8)。

³ バージニア・リールはアメリカのフォークダンスで中
学校のフォークダンス授業に適しているとされる (写
真8)。

⁴ 軍政府は軍政部と示されている場合もあるが、本稿で
は引用および参考文献に即して表記する。その他の名

	日本の民謡	外国のフォークダンス
主に小学校	(北海道・東北) ソーラン節, 津軽じょんがら節 (関東) 八木節 (中部・近畿) 河内音頭, ちゃっきり節 (中国) 阿波踊り (九州) エイサー	(一重円) タタロチカ, キンダー・ボルカ, マイム・マイム (二重円) コロブチカ, エース・オブ・ダイヤモンド (特徴的な隊形) ジェンカ, グスタフ・スコール
主に中学校	(北海道・東北) 北海道盆唄, 秋田音頭, 花笠音頭, 大漁唄いこみ (関東) 日光和楽踊り, 秩父音頭, 東京音頭, 足柄ささら踊り (中部・近畿) 浜おけさ, 越中おわら節, 木曾節, 春駒, 串本節 (中国) 貝殻節, 金尾屋船船, よさこい節 (九州) 炭坑節, おてもやん, 鹿児島おはら節	(一重円) オスロー・ワルツ, ハーモニカ (二重円) オクラホマ・ミキサー, パティケック・ボルカ, ドードレプスカ・ボルカ ヒンキー・デンキー・パーリ・ ブー (特徴的な隊形) バージニア・リール

写真8. 中学校学習指導要領解説保健体育編
平成20年9月 P174

称についても同様とする。

⁵ レクリエーションのことである。レクリエーションは原
文のまま記載している。

⁶ 米軍の報告書では社会教育ではなく成人教育という言葉
が使用されていた。

⁷ スクエアダンスとは、アメリカ発祥のフォークダンス
で、コールや隊形移動に特徴があるダンスのこと。中
学校学習指導要領解説(写真8)では、ヒンキー・デ
ンキー・パーリ・ブーが該当する。

⁸ 越中哲也について

1921年 (大正10年生まれ) 95才

長崎市新大工町にある光源寺の長男として生まれる

1947年ニプロ氏のフォークダンス教室に関わる

1948年長崎の社会教育の代表に任命される

長崎文化歴史協会理事長、長崎純心大学名誉教授

(2015年12月2日聞き取り調査当時)

文献

アーンズ, レイン: 訳福田文子・梁取和紘(2002)幕末・
明治・大正・昭和: 長崎居留地の西洋人. 長崎文献社.

小玉立哉 (2011) 札幌在任時のウインフィールド・P・
ニプロの活動についてーenskエアダンスを中心とし
たスポーツ, レクリエーションの普及活動, 道都大学
紀要 (経営学部) (10): 1-14.

佐世保市教育委員会史編さん委員会編 (1973) 佐世保市
教育委員会史: その20年のあゆみ. 佐世保市教育委員
会.

瀬野誠一郎 (2008) 歴史の残像: 歴史家の見た戦前・戦
中・戦後. 吉川弘文館.

塚野克己 (1990) 長崎県の教育群像. 長崎教育研究協議
会.

長崎県教育庁総務課編 (1978) 教育委員会発足30周年記念
誌. 長崎県教育委員会.

毎日新聞西部本社 (1994) 激動二十年: 長崎県の戦後史.
葦書房有限会社.

矢島ますみ・三浦弓杖 (1996) 舞踊教育再構築 (IV)
—日本における舞踊教育の可能性—: 学校における
フォークダンスの学習過程. 千葉大学教育学部研究紀
要 I, 44: 169-175.

- 山口俊郎（2004年）桜馬場町今昔詩：長崎は桜馬場から。長崎文献社。
- 朝日新聞（2012a）ニッポン人・脈・記 あの頃アメリカ③：ニプロさんと踊ろうよ。4月5日朝刊(九州版), 31面。
- 朝日新聞（2012b）ニッポン人・脈・記 あの頃アメリカ④：二つの顔と向き合って。4月6日朝刊(九州版), 33面。
- 長崎新聞（2014）原爆をどう伝えたか 長崎新聞の平和報道 第2部 プレスコード④ 民主化教育 メディアを巧みに利用 記者も率先してGHQ取材。10月8日朝刊, 28面。
- 西日本新聞（2005a）垣根を越えて！長崎生まれのフォークダンス<上>ニプロさん：連載おてもやんが呼び水に 小さな畳の部屋で産声／文化。4月20日朝刊, 10面。
- 西日本新聞（2005b）長崎県／24日にHTBでフォークダンスフェスタ 石橋輝夫さんに聞く 日本連盟県支部長 各国の踊り楽しめる／ながさきWIDE。4月20日朝刊, 25面。
- 西日本新聞（2005c）垣根を越えて！長崎生まれのフォークダンス<中>男女一緒に：連載「民主主義を広める道具」文部省が飛びついた！／文化。4月21日朝刊, 12面。
- 西日本新聞（2005d）垣根を越えて！長崎生まれのフォークダンス<下>健康づくり：連載体動かし一体感生まれ 手をつなぎ夢は世界へ／文化。4月22日朝刊, 13面。
- 西日本新聞（2007a）平和願い民族舞踊の輪 来月22日ハウステンボス フォークダンスフェスティバル 軽快なリズムでダンスを楽しもう。3月22日朝刊, 27面。
- 西日本新聞（2007b）「世界の踊り楽しんで」HTBできょうフォークダンスフェス 実行委員長石橋さん 飛び入り呼び掛け。4月22日朝刊, 25面。
- 西日本新聞（2007c）超短波（佐世保・ハウステンボスフォークダンスフェスティバル）。4月23日朝刊, 19面。
- 西日本新聞（2007d）フォークダンスで広がる交流の輪 発祥の地長崎・ハウステンボスに1300人。5月22日, 4面。
- 西日本新聞（2008a）全国から踊りの輪「フォークダンスフェスティバル」来月20日 ハウステンボス。3月6日朝刊, 24面。
- 西日本新聞（2008b）フォークダンス「楽しさ知って」HTBで20日に大会。4月17日朝刊, 28面。
- 西日本新聞（2008c）ハウステンボス・フォークダンスフェス開催。4月17日朝刊, 30面。
- 西日本新聞（2009a）Shall we フォークダンス？佐世保・HTBフェスタ2009さあ踊りましょう 広がる輪。4月16日朝刊, 23面。
- 西日本新聞（2009b）Shall we フォークダンス？佐世保・HTBフェスタ2009⑤輪の中へ飛び入りも大歓迎。4月17日朝刊, 25面。
- 西日本新聞（2009c）フォークダンスフェス 今日開幕。4月18日朝刊, 31面。
- 西日本新聞（2009d）HTBでフォークダンス祭 笑み弾み1900人舞う。4月20日朝刊, 28面。
- 西日本新聞（2009e）手つなぎ広がる輪 佐世保市でフォークダンス祭。4月21日朝刊, 16面。
- 西日本新聞（2010a）優雅に踊りの輪 17、18日フォークダンスフェス ハウステンボスなどで開幕。4月1日朝刊, 14面。
- 西日本新聞（2010b）手と手つないで踊れば笑顔「フォークダンスフェス」17日開幕 愛好者本番控え猛練習。4月15日朝刊, 20面。
- 西日本新聞（2010c）市民交流 踊りの場 フォークダンスフェス開幕 きょうHTBで全体交流会。4月18日, 24面。
- 西日本新聞（2010d）HTBで1200人が踊りの輪。4月19日朝刊, 26面。
- 西日本新聞（2010e）手取り踊る笑顔の同心円 佐世保フォークダンスフェス。4月20日朝刊, 20面。
- 西日本新聞（2011a）フォークダンスフェスが開幕 市民300人踊りの輪 佐世保市 きょうHTB本番。5月16日朝刊, 22面。
- 西日本新聞（2011b）手と手つなぎ笑顔の輪 HTBでフォークダンス祭 スペイン舞踏団が公演。5月17日朝刊, 22面。
- 西日本新聞（2012a）よかトコ探訪よかモン さあ、一緒に踊ろう 12、13日HTBで「フォークダンスフェア」伝承のきっかけは日米交流 生きがい・健康づくりに人気。5月10日朝刊, 24面。
- 西日本新聞（2012b）フォークダンスフェスティバル 踊りの輪に参加しよう5月13日 ハウステンボス。3月21日朝刊, 25面。
- 西日本新聞（2013a）本社の事業 フォークダンスで友好を 来月21日フェスタ参加者募るハウステンボス 長崎県佐世保市。3月20日朝刊, 29面。
- 西日本新聞（2013b）フォークダンス「楽しさ知って」HTBで20日に大会。4月17日朝刊, 28面。
- 西日本新聞（2013c）ハウステンボスから 21日フォークダンスフェス。4月18日朝刊, 25面。
- 西日本新聞（2013d）踊りの輪「みんなと一体」HTBフォークダンスフェスタ高齢者も軽快に。4月22日朝刊, 26面。
- 放影研の歴史 <https://www.rerf.or.jp/uploads/2017/07/rerfhistj.pdf>